

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	①	島の交流拠点施設整備事業【新規】	
担当課名	総合政策課		所属長名 小柳 哲也
関係課名	建設課、観光商工課、農林課、水産課、財産管理課		

1. 事業の目的						
○総合的に人が集まる場所（物産販売、体験、交流、食事等）としての施設整備の検討を行い、「ひと」と「しごと」の好循環を支える基盤整備及び地域活性化につなげていくことを目的とする。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○総合的に人が集まる場所（物産販売、体験、交流、食事等）としての施設整備の検討を行う。			○中五島高校2年生とのパブリックワーク（新上五島町の未来への光を探せ）で人が集まる場所づくりとして、旧崎浦小学校校舎の有効活用について検討を行った。 ○民間事業者から旧崎浦小学校再利用プロジェクトの提案があり、財産管理課及び教育委員会へ情報提供した。			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○平成28年度に民間事業者からの提案があり、決定しているが契約までは至っていないため、今後の動向等を踏まえる必要がある。			○平成28年度に民間事業者からの提案があり、決定しているが契約までは至っていないため、今後の動向等を踏まえる必要がある。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○平成28年度に民間事業者からの提案があり、決定しているが契約までは至っていないため、今後の動向等を踏まえる必要がある。						

担当課評価	B	○遊休公共施設の活用に向け、今後の動向等を踏まえる必要がある。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	②	若松診療所整備事業【新規】	
担当課名	若松診療所		所属長名 荒 木 建 就
関係課名	健康保険課		

1. 事業の目的						
○地域に住む人々が安心して住み続けられるよう、地域医療拠点の確保のため老朽化が著しい若松診療所の建て替えを行う。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○事業計画 ・平成30年度 基本設計業務委託 ・平成31年度 実施設計業務委託 解体設計業務委託 ・平成32年度 建設工事 解体工事				○平成28年度取組み実績なし。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
—				—		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○公共施設等総合管理計画の方針に基づき、建て替え時期や施設の規模など、詳細について今後協議を進めていく。						

担当課評価	—	○公共施設等総合管理計画の方針に基づき、建て替え時期や施設の規模など、詳細について今後協議を進めていく。
委員評価	—	○次年度以降に評価

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	③	町営住宅建替事業	
担当課名	建設課	所属長名	本田 雄 喜 治
関係課名			

1. 事業の目的						
○新上五島町公営住宅長寿命化計画において「建替」と位置づけられた町営住宅の建替を実施し、老朽化、耐震性の改善及び高齢者の入居にも対応したニーズの高い町営住宅の供給を図る。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○長寿命化計画に基づく町営住宅に建替え				○町営住宅つつじヶ丘団地建替 ・既存住棟解体工事 1棟（5戸） ・建設工事 1棟（6戸） ・設計監理業務委託 1式		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	76,929千円	38,895千円		37,800千円		234千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○公営住宅整備基準の「温熱環境（省エネ）」「遮音性能、劣化の軽減」「維持管理への配慮」「空気環境（シックハウス）」「高齢者等への配慮」等を考慮した計画をし、住民のニーズに対応した町営住宅の整備ができた。				○昭和56年（旧耐震）以前に施工された耐震性を有しない公営住宅が多数存在する。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○引き続き、長寿命化計画に基づき、耐震性の改善及び高齢者の入居に対応した町営住宅の建替えに取り組む。						

担当課評価	B	○長寿命化計画どおり事業は進捗されている。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	④	都市公園整備事業（運動公園改修事業含む）	
担当課名	建設課		所属長名 本田 雄 喜 治
関係課名	生涯学習課		

1. 事業の目的						
○都市計画公園について、今後進展する老朽化に対する安全性の確保、機能の確保及びライフサイクルコストの削減の観点から、予防保全型管理による長寿命化対策を含めた計画的な維持管理・更新を的確におこなうことを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○有川運動公園の長寿命化計画に基づいた改修工事				○有川運動公園施設長寿命化対策工事 ・テニスコート人工芝張替え 2,891㎡ ・テニスコート休憩所改修 2基 ・バックネット改修（陸上競技場）L=28m 1基 ・ネットフェンス改修（陸上競技場） L=100m ・地質調査業務（土質ボーリング等）1式 ・液状化解析業務 1式		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	57,081千円	28,288千円		27,300千円		1,493千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○テニス場の改修、陸上バックネット、ネットフェンスの改修により競技の際の安全性が向上した。 ○また、地質調査、液状化解析を実施したことで、H29年改修予定の野球場照明、スコアボード基礎を検討する資料となった。				○劣化が著しい施設が多数あるため早急な補修・更新が必要。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○引き続き、長寿命化計画に基づき、施設の補修又は更新に取り組む。						

担当課評価	B	○当初の長寿命化計画より若干遅れているが、事業は進捗されている。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑤	普通住宅解体事業	
担当課名	財産管理課		所属長名 橋口文四郎
関係課名			

1. 事業の目的						
○老朽化し、使用に耐えない普通住宅の解体を年次計画により実施し、近隣住民への環境整備を図るとともに普通財産の適正管理を行う。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○老朽化等により使用に耐えない普通住宅の計画的な解体を実施する。				○平成28年度実績：解体数 1 棟		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	829千円					829千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○普通住宅の中から老朽化がひどく近隣住民等へ悪影響を与える恐れがある住宅から解体が実施できた。				○町の財政状況と財産管理課内での他事業との優先順位を検討しながら計画的に解体を進めて行く必要がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○危険度や近隣住民への悪影響の大きさの他、跡地の有効活用等も考慮しながら優先順位を決定する。						

担当課評価	B	○公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化等により使用に耐えない普通住宅の計画的な解体を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑥	老朽危険空き家除却費補助事業	
担当課名	建設課		所属長名 本田 雄 喜 治
関係課名			

1. 事業の目的						
○管理不全な老朽危険空き家を除去する所有者等に除却費の一部を助成する事業を実施することで、対象物件の危険性を認識し除却意識を誘導することで、町の安心・安全な住環境づくりを促進することを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○老朽危険空き家除却費の補助 ・所有者への補助約40%，限度額800千円				○回覧及び広報誌により住民への周知を行った。 ○補助金活用はなかったが、相談が3件あり、個人負担により除却。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○補助金活用までには至らなかったが、談件数10件のうち3件は個人負担により除却。 ○また相談がなかった建物についても46件除却され、解体への誘導が図れた。				○特になし		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○引き続き制度周知を行い、老朽危険空き家の除却に取り組む。						

担当課評価	B	○老朽空家解体の誘導が図られており、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑦	町営住宅解体事業	
担当課名	建設課	所属長名	本田 雄 喜 治
関係課名			

1. 事業の目的						
○老朽化の著しい町営住宅を解体し、近隣住民への環境整備を図るとともに、跡地の有効利用を図る。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○公共施設施設見直し実施計画及び公営住宅長寿命化計画に基づく町営住宅の解体。				○平成28年度解体実績なし。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○平成28年度解体実績なしのため、成果なし。				○入居者の退去待ちになり、強制退去できない。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○公営住宅長寿命化計画により、老朽化の著しい住宅については、早期退去をお願いする。						

担当課評価	B	○公共施設見直し実施計画及び公営住宅長寿命化計画により進捗している。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑧	耐震・安心住まいづくり支援事業	
担当課名	建設課	所属長名	本田 雄 喜 治
関係課名			

1. 事業の目的						
○旧耐震基準の木造住宅所有者が耐震診断や耐震改修計画作成及び耐震改修工事を実施する際に、国及び県と共に費用の一部を助成することにより、震災に強い安全なまちづくりを推進することを目的とする。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○耐震診断：対象住宅の耐震診断に要する費用46,200円のうち、30,800円を助成 ○耐震改修計画：耐震診断の結果、耐震基準に適合しない住宅を基準値以上にするための耐震改修計画作成に要した費用の3分の2（限度額：70,000円）を助成			○全世帯回覧及びホームページにおいて、支援制度の周知を図った。 ○申請実績0件、問い合わせ1件			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○申請は0件であったが、問い合わせは1件あった。			○住民の耐震に対する意識が低く、申請にいたったものはなく0件に終わった。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○回覧、ホームページ等で支援制度の周知に加え、施工業者にも会議等の折、事業内容を説明を行なう。						

担当課評価	C	○地震について住民の関心が薄く成果が上がっていない。
委員評価	C	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑨	観光地トイレリニューアル事業【新規】	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○世界遺産登録を間近に控え、観光客の受入体制の整備を図るため、公園や観光施設に設置している和式トイレを洋式トイレに改修する。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○高齢者をはじめ、多くの島民や観光客の受入体制の整備を図るため、公園や観光施設に設置している和式トイレを洋式トイレに改修する。				○平成28年度実績 ・ 蛤浜休憩所 4 基（610,200円）、 ・ 有川青少年旅行村 4 基（680,400円）、 ・ 守崎公園 4 基（1,268,136円） の便器を洋式に改修した。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	2,559千円					2,559千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○世界遺産登録に向けてのみならず、高齢者を中心とした利用者に対して利便性の向上を図ることができた。				○主な公園や観光施設については、トイレの洋式化を整備してきたが、今後も各施設トイレの適正な維持管理に努めていく。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○観光庁のトイレ洋式化補助事業があれば要望の申請を行っていく。						

担当課評価	B	○公園や観光施設トイレの洋式化によって、世界遺産登録に向けてのみならず、高齢者を中心とした利用者に対して利便性の向上を図ることができ、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	⑩	公共施設等総合管理計画策定事業	
担当課名	財産管理課		所属長名 橋口文四郎
関係課名	公共施設を持っている全課		

1. 事業の目的						
○公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うための総合管理計画を策定するとともに、地方公会計整備のための固定資産台帳の策定を図る。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○公共施設等の全体を把握し、長期的な視点に立って総合的かつ計画的な管理を行い、財政負担の軽減や平準化とともに、最適な配置を図るための基本方針となる公共施設等総合管理計画と、国からの要請に基づく地方公会計整備のための、固定資産台帳の整備を図る。				○公共施設等の全体を把握し、長期的視点に立って総合的かつ計画的な管理を行い、財政負担の軽減や平準化とともに、最適な配置を図るための基本方針となる公共施設等総合管理計画と、国からの要請に基づく地方公会計整備のための、固定資産台帳が策定できた。 ○業務委託料 27,432,000円		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	27,432千円					27,432千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○公共施設等の内建築物系については、今後40年間で床面積に換算して27%以上の削減目標とすること、道路等の都市基盤施設については施設の重要度や緊急度などを評価し、更新・補修等の計画が必要であることが方針として示された。また、地方公会計の基となる固定資産台帳の整備がなされた。				○総合管理計画の方針に基づき、個別計画の策定と全体的な調整が推進できるかが課題となる。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○公共施設等総合管理計画に基づき、各所管課において施設の長寿命化計画や統廃合、改善・見直し、継続等の個別計画の策定を要請していく。						

担当課評価	B	○公共施設等総合管理計画に基づき、各所管課において施設の長寿命化計画や統廃合、改善・見直し、継続等の個別計画の策定を要請していく。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	1	地域を支えるインフラ・サービスの活性化	
事業名	①①	奈良尾新温泉活用施設建設事業	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○現在、奈良尾温泉センターは町民憩いの場として年間約2万人に利用されてきたが、昭和55年の開業から35年が経過し建物や設備の老朽化から建て替えが望まれており、観光・ビジネス客の利用も期待できることから、温泉温浴施設の建設及び民間企業による旧施設のホテル化を目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○建設概要 ・ 建築面積 A=374㎡、 ・ 浴室面積（洗い場、浴槽、サウナ）A=60㎡、 ・ 浴槽面積 A=13㎡ ○建設予定地 ・ 既存施設をホテルとしてリノベーションし、町民だけでなくホテル宿泊者や観光客等の利用を図るため、隣接する場所に建設する。また温浴施設の魅力向上のため景観の良い観音公園内を建設予定地としている。				○温浴施設の建設にあたり、隣接する民間企業によるホテル化事業の調整に時間を要し施設建設については未着工となった。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○温浴施設の建設にあたり、隣接する民間企業によるホテル化事業の調整に時間を要し施設建設については未着工となった。				○世界遺産登録推薦書の一旦取り下げにより生じた、ホテル化事業の進捗に遅れにより温浴施設の着工ができなかった。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○ホテル化事業の進捗状況を見極めながら、事業を推進して行く。						

担当課評価	B	○世界遺産登録推薦書の一旦取り下げにより、ホテル化事業の進捗に遅れが生じていたが、ホテル運営の民間事業者との調整にも目途がついたことから継続して事業を推進する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	①	地域活動支援事業【拡充】	
担当課名	総合政策課		所属長名 小柳 哲也
関係課名			

1. 事業の目的						
○町民による自主的な地域づくり活動に対し支援を行い、協働のまちづくりを推進するとともに、自治活動の促進、地域活性化を図ることを目的とする。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○各地域が集会や研修を行う施設整備に対する経費や地域住民が自主的に進めるコミュニティ活動事業に要する経費に対して補助を行う。 ○地域自治活動、地域づくり協議会活動、まちづくり推進団体活動への支援 ○地域が行う防災対策事業（危険家屋安全対策）			○自治施設整備事業 30地区 5,191千円 ○地域整備事業 3地区 1,765千円 ○自治活動事業 22地区 1,914千円 ○まちづくり推進団体 5団体 483千円 ○防災対策事業（H28～新規） 1地区 100千円 ○地域づくり協議会事業 1団体 506千円 ○計 62件 9,959千円			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	9,959千円				2,681千円	7,278千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○活動件数は前年度と比較して、△2件 33千円減少しているが、補助を活用した団体は1団体増加し47団体となり、事業としては浸透している。 ○ソフト事業である自治活動は昨年に引き続き22地区、まちづくり推進団体活動についても同様に5団体、地域間交流を目的とする複数の自治会での連携事業も1件→3件と増加傾向にある。 ○20世帯以下の小規模集落については、負担割合の軽減を実施した。			○地域の防災意識の高まりなどに対応する支援制度の見直し・拡充が必要になっている。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○総務課や建設課と地区の危険家屋等の情報を共有しつつ、防災対策事業の拡充・支援制度の見直しを行い、安全安心な地域づくりを目指す。						

担当課評価	B	○関係各課と地区の危険家屋等の情報を共有しつつ、防災対策事業の拡充・支援制度の見直しを行い、安全安心な地域づくりを目指していく必要があるため、今後も事業を継続する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	②	集落維持・活性化プロジェクトモデル事業【新規】	
担当課名	総合政策課		所属長名 小柳 哲也
関係課名			

1. 事業の目的						
○自分たちの地域は自分たちで創り守るという住民主導の組織づくりや運営など、集落の維持・活性化を図ることを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○自分たちの地域は自分たちで創り守るという住民主導の組織づくりや運営など、集落の維持・活性化の取り組みをモデル事業として検討する。 ○集落の現状や集落の要望等を踏まえ、集落支援員の配置についての検討を行う。				○住民主導の組織づくりや運営など、地域からの相談等はなかった。 ○「津和崎・米山地区地域づくり協議会」に地域担当職員を3名配置した。 ○協働推進員を各課2名、計54名配置した。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○住民主導の組織づくりや運営など、地域からの相談等はなかった。				○地域のニーズ（地域は何を必要としているのか）など把握していく必要がある。 ○集落支援員配置について検討しているが、実際に地区からの要望等があがってこない。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○地域の実情や考え、地域の自主性など行政主導ではなく、地域住民が主導して取り組んでいくことが、集落維持・活性化及び持続する活動に繋がることから、地域の動きを注視しながら連携協力して取り組んでいく。						

担当課評価	C	○地域の実情や考え、地域の自主性など行政主導ではなく、地域住民が主導して取り組んでいくことが、集落維持・活性化及び持続する活動に繋がることから、地域の動きを注視しながら連携協力して取り組んでいく。
委員評価	C	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	③	展望所等景観整備事業	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○美しい自然や雄大な景観を観光資源として眺望するため、町民や観光客が何度も訪れたいよう眺望スポット（展望所等）の整備を行い、自然景観ブランドとして位置づけるための事業。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○眺望スポット（展望所等）の整備、駐車場や案内板、道路等の整備、眺望に配慮した木々の伐採などの景観整備を行う。				○上五島空港線沿い及び黒崎園地の伐採を実施し眺望の確保を行った。 ○環境省関連事業で、若松大橋周辺の木々の伐採により景観整備を行った（町負担なし）。		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	734千円					734千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○眺望に配慮した木々の伐採により、眺望スポット（展望所等）の整備が図られた。				○本町は、美しい景観が多く、その多くは、西海国立公園に指定されていることや、木々の伐採など景観整備を行う場合、土地の所有者など関係者との調整が必要である。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○景観を整備する場所については、住民や観光客の意見を聞きながら選定していくとともに、関係者や関係各課と協議しながら取り組んでいく。						

担当課評価	B	○眺望に配慮した木々の伐採により、眺望スポット（展望所等）の整備が図られており、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(ア)	「しごと」と「ひと」の好循環を支える基盤整備	
	①	快適で暮らしやすいまちの創出	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	④	沿道つばき林整備事業	
担当課名	農林課	所属長名	堤 田 勝
関係課名			

1. 事業の目的						
○島内幹線道路（国道、県道、町道）の景観向上を図る。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○島内幹線道路（国道、県道、町道）の景観を改良し、植栽の種類を順次つばきに変えて行く。				○町内2団体の協力があり、総延長1.65kmの整備を行った。 192千円		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	192千円					192千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○周辺景観の向上や環境に対する意識の高揚に繋がった。				○年々申請団体が減少傾向にある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○住民回覧や広報誌への掲載回数を増やすなど、住民への周知を徹底したい。						

担当課評価	B	○整備延長を増やすため、周知を徹底する必要がある。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。